

花

花とは植物が成長してつけるもので、多くは綺麗な花びらに飾られる。花が枯れると果実ができ、種子ができる。多くのものが観賞用に用いられる。生物学的には種子植物の生殖器官である。

めしべ（柱頭・花柱・子房）

・子房（しぼう, 英: ovary）は花柱の下にあるふくれた部分で、胚珠（受精したのちに種子となる）を含む。受精後、発育して果実となる。

・花柱（かちゅう, 英: style）は柱頭と子房をつなぐ細長い部分で、花粉管を胚珠まで伸長させる通路がある。

・柱頭（ちゅうとう, 英: stigma）は先端の部分にあり、表皮がなく、花粉を受け取るために特化した器官である。ふつう粘着性がある。花柱がなく子房に柱頭が直接乗った形になる種（ケシ科など）もある。

おしべ（やく・花糸）

・葯（やく）(Anther)は花粉を入れる袋状ところ

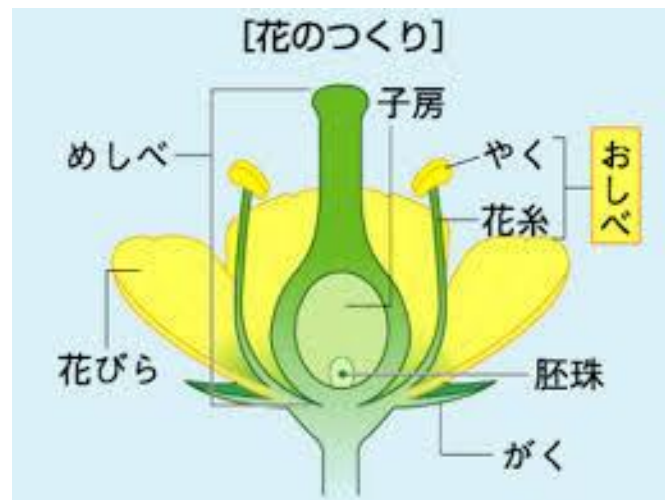
・花糸（かし）(Filament)は葯（やく）を支える部分。

花弁・がく片・花柄

・花弁（かべん）: 花びらのこと、めしべ・おしべの保護, 虫媒花では美しい色彩で、昆虫を呼ぶ。

・がく片（がく）: 花弁の付け根にある緑色の小さい葉のようなもの。花全体を支える。

・花柄（かへい）: 花を支えるための茎である。花柄は通常緑色であるが、色が付いていることもある。花柄は分岐していることもあり、その場合、分岐は小花柄 (pedicel) と呼ばれる。



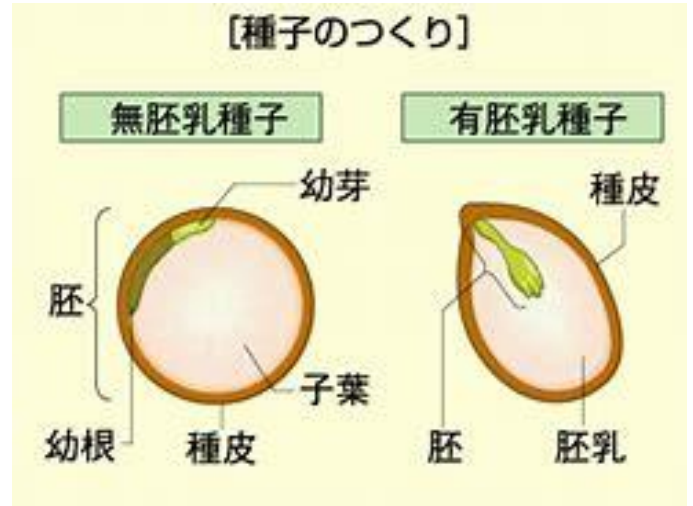
種子

植物の種子は有胚乳種子と無胚乳種子の2種類に分けられます。

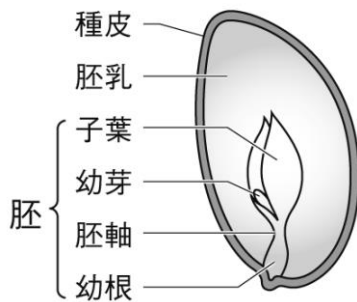
種子(たね)は胚と養分貯蔵組織などからできている。イネなどの有胚乳種子では胚乳が、ダイズなどの無胚乳種子では子葉が養分貯蔵組織となる。

有胚乳種子・・・カキ、イネのなかま(ムギ・アワ・ヒエなど)、とうもろこしなど。

無胚乳種子・・・インゲンマメなど。(※無胚乳種子は、たくさん種類があります。)



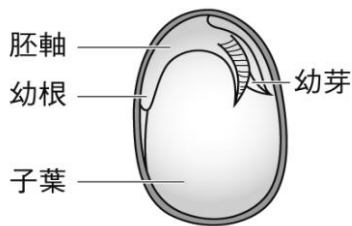
◆有胚乳種子◆



◆有胚乳種子◆

- 種皮・・・種子を保護する皮の部分
- 胚乳・・・発芽に必要な栄養が蓄えられている部分
- 胚・・・将来植物の体となる部分
- 子葉・・・発芽した際に出る葉となる部分
- 胚軸・・・将来茎になる部分
- 幼根・・・将来根になる部分

◆無胚乳種子◆



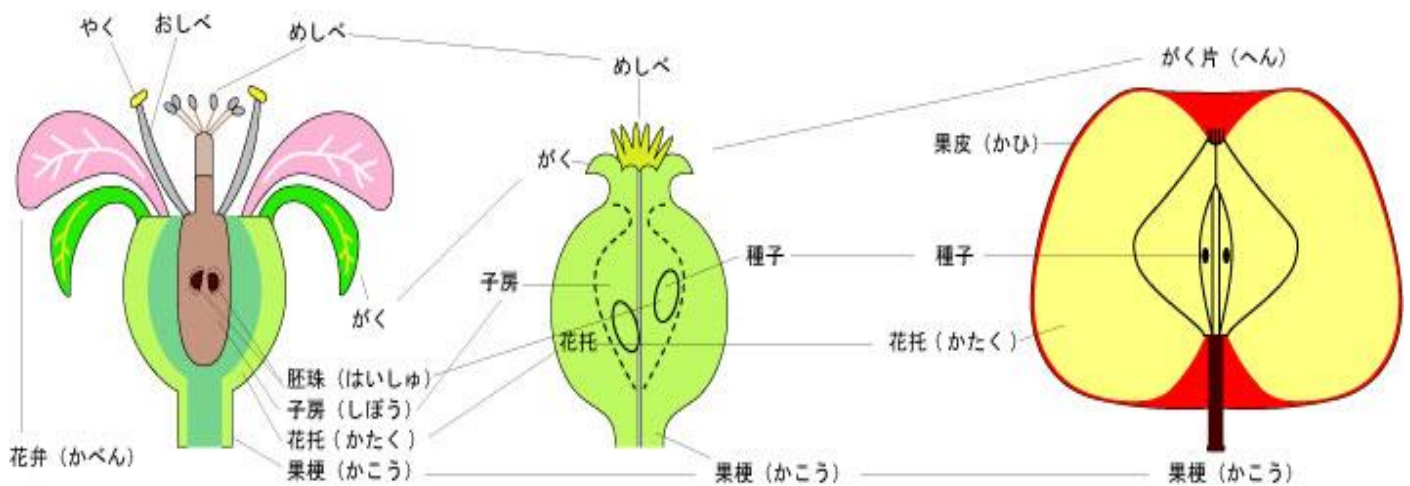
◆無胚乳種子◆

- 胚軸・・・将来茎になる部分
- 幼根・・・将来根になる部分。
- 子葉・・・発芽したときに出る葉となる部分。(栄養貯蔵組織)
- 幼芽・・・将来本葉になる部分

果実

受精によってできた胚と胚乳は成熟し、やがて発芽の機能を備えた種子になる。また、受精にともない、子房や花床部位が肥大し果実になる。果実は成熟するにつれて糖類などをたくわえるものも多く、食用にされるものも多い。

リンゴ



胚珠は種子へ、花托は肥大し果肉になります。

花托 (かたく) : 果肉の部分は、花托と呼ばれる部分が発達したものです。りんごを含め、ウメ・モモ・ビワ・イチゴなどのバラ科植物の一部には、花托が変化して食用部分となる性質があります。